

「いのち」の教育実践事例

☆☆遊佐町立遊佐中学校の実践☆☆

生命の継承の大切さに
関する教育

— 2030ゴール「複眼思考でつくり出そう 誰一人取り残さない、持続可能な遊佐中」—

遊佐中学校では、2030年ゴールのスローガンを掲げ、「人」と「地域」のつながりを大切にしながら、生徒（たち）自身が「何ができるか」考え、実行する主体的な活動を推進しています。遊佐町の特色を生かし、3年間系統立てた総合的な学習の時間の計画・実行や、生徒の自主的活動によるボランティア活動、子どもと地域をつなぐ地域連絡員の導入、学校運営協議会への生徒の参加など、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことにつながる活動に意識して取り組んでいます。

これらの活動を通して、多様性を認め合い、つながりを大切にした持続可能な社会の創り手となる生徒を育てたいと思っています。

○総合的な学習の時間

- ・1年生【地域を知る】
～ジオパーク学習と関連づけて自分の周りに目を向けよう～
- ・2年生【地域に学ぶ】
～地域を支える職業人を通して学ぼう～
- ・3年生【地域に参加する】
～人のため、遊佐町のためにできること～
人や地域との関わりの中で、学年毎に探究学習で学びを深め、「未来」をいきいきと語る生徒の姿が見られました。

○学校運営協議会への生徒の参加

年3回の学校運営協議会の中で、1回は「拡大学校運営協議会」を開き、委員とPTA代表、生徒会役員と希望参加者の意見交換を行っています。今年度は、学校評価（中間報告）を基に、「地域×学び」をテーマにグループワークを実施しました。複眼思考で物事を考え、新しい価値に気づくことができました。

○地域とつながる「地域連絡員」の活躍

遊佐中を核とした地域作りのために「遊佐町地域湧く湧くコーディネーター（地域学校協働活動推進員）」が6地区それぞれに配置されています。各地区と子どもをつなぐ役割としての、生徒による「地域連絡員」の活躍により、各地区への興味関心が高まり、地域行事への参加者が増えています。

アドバイザーをはじめ、地域の方々も温かく生徒を見守ってくださっています。

○多様性を認め合う学校づくり

インクルーシブ教育・キャリア教育を目的として、「障がい」のイメージの変容と福祉を機転とした新たな文化を創造している（株）ヘラルボニーの講話を実現。トークセッションでは、多様性・自己の生き方について積極的に意見を交換しました。新たな視点をもつきっかけとなり、これからの生き方に影響する出来事となりました。



豊かな自然に囲まれて
1年フィールドワーク

2年遊佐町出前講座

←3年 課題研究発表



新たな価値の
創造へ！

拡大学校運営協議会



地域でも大活躍の
遊佐中生！

地域 秋祭り

地区運動会
打ち合わせ会



全校生徒を
前に、多様な
生き方につ
いて講師の
方とトーク
セッション。

異彩を、放て。